

大野市小中学校再編計画（案）について

～大野らしさが生きる教育を実現し、未来を生き抜く力を育むために～



日時：令和3年8月26日（木） 午前10時～
午後 2時～
場所：結とぴあ305・306号室
小中学校教職員説明会

1 再編計画の見直しについて

全国的に少子化が進行している中、大野市では、平成16年4月に大野市小中学校再編計画を策定し、これまで4つの小学校の再編を進めてきました。（六呂師小学校、森目小学校、蕨生小学校の3校、さらに令和3年4月に乾側小学校）

近年、児童生徒数の減少により小中学校の小規模化が進み、計画の見直しが必要となりました。

このため、平成29年1月に「大野市小中学校再編計画」を策定し、中学校を令和5年度に1校、小学校を令和8年度に2校にすることで、大規模校ならではのメリットを生かしつつ、ふるさと教育を推進し、地域への誇りと愛着を持った、優しく、賢く、たくましい大野人を育てる学校を目指すこととしました。

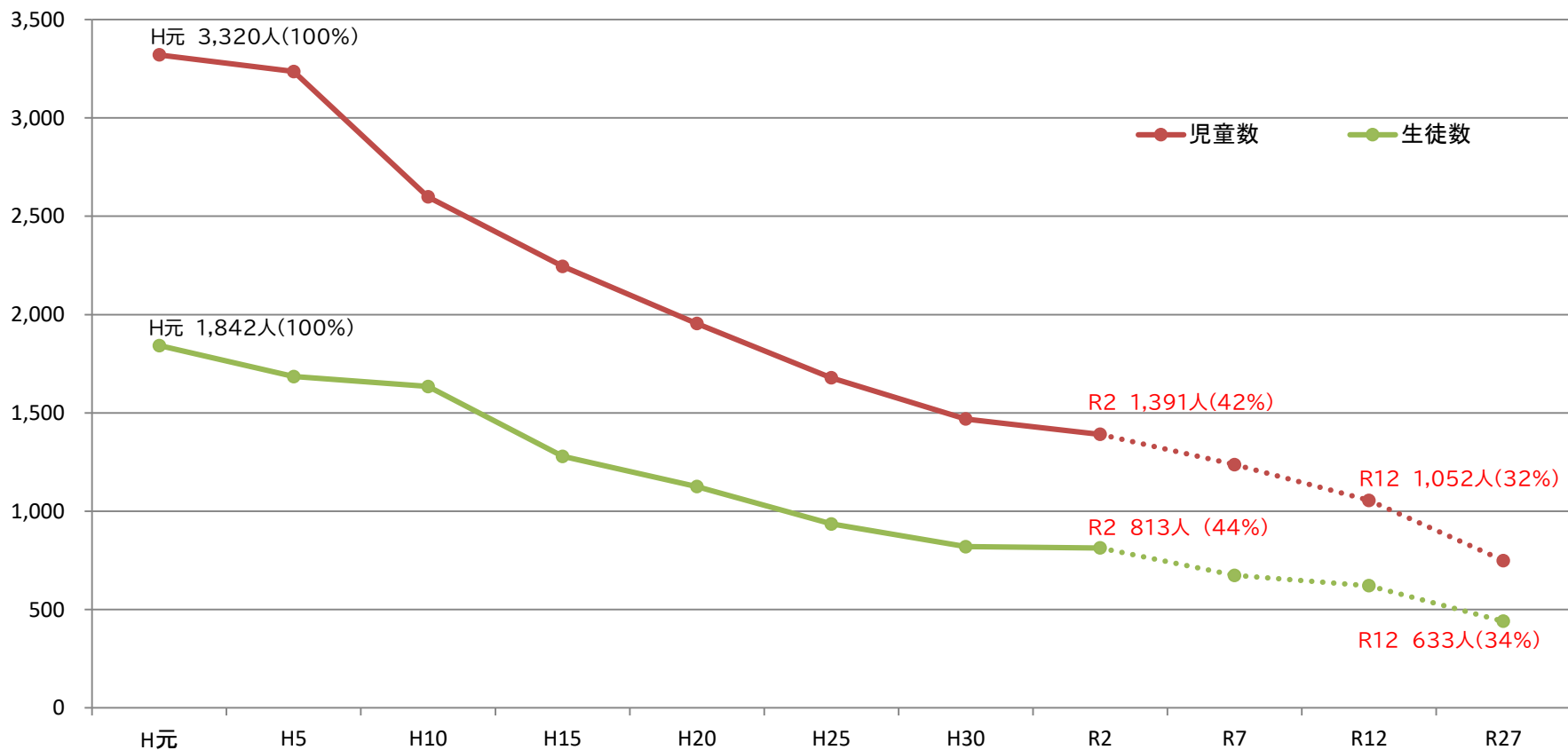
この計画を進めるに当たっては、特に学校数に対する多くの意見があったことから、平成30年8月に計画を見直すことを決定し、保護者や市民の皆さん、児童生徒からご意見（アンケート調査）をいただきました。

また、令和2年度には大野市小中学校再編計画検討委員会を設置し、協議いただいた内容をまとめた報告を受けました。

この報告を基に、令和3年3月に大野市小中学校再編計画（案）を作成しました。

本年度中に、説明会や検討委員会を開催し、パブリックコメントを実施したうえで教育委員会において再編計画を改訂します。

◆ 児童・生徒数の推移と将来予測（市全体）



2 計画（案）の概要について

（1）大野市が目指す学校教育

○ 大野らしさが生きる教育を進める

各地区で行われている数多くの伝統行事や伝統芸能など
水と緑が豊かな自然や幕末の大野藩の改革など

大野らしさを代表する魅力

魅力を十分に生かすとともに、国際化社会や情報化社会の進展など、変化の大きい社会に対応できる人を育てる教育を進めます。大野市教育理念に謳われる「生きる道」を明らかにし、「進取の気象」を育てた明倫の心を未来へ受け継ぎます。

○ 子どもの成長過程を踏まえる

子どもたちは、最も身近な家族から徐々に大きなコミュニティに属しながら成長します。児童生徒の成長過程に応じ、小学校と中学校では期待される使命が異なります。小学校期は「地域」で、中学校期は「市全体」で育てることを基本に、個々の健全な成長を支援します。

小学校期は、可能な限り地域の温かい見守りの中で育て、愛され大切にされていると実感できる安心感を育てます。中学校期は、より広い世界の大野市全体で育て、変化する社会に自信を持って対応できる「生きる力」と「社会性」を育てます。

○ 地域性を生かす

【縦軸】小中学校間で指導観を共有し一貫性を図るため、教員間の情報交換や研修を密に行い、施設分離型による一貫教育に取り組んでいます。
【横軸】機動力のある適度な規模の地域性を生かし、学校間（小学校同士、中学校同士）の連携を進めます。

本市の特徴を最大限に生かし、縦横の関係を柔軟に連携させて一体的な教育を進めます。

○ 自信を育む教育で基礎を固める

自信（自尊感情）を持って前向きに生きていく大野人を育てるために、小・中学校の9年間を「自信を育む教育」で支えます。

◆社会的な自信

自尊感情が高まれば、何事にも積極的に取り組むことができます。また、自分も周りの人たちも大切にすることができます。家庭と学校が、その子の得意なことや長所に目を向けることの大切さを共有し、一人一人の自信を育む教育を進めます。

→ 自分の存在を周りから認められ、大切にされていると実感できる「心の居場所」にします。

◆基本的な自信

その子の存在自体が認められることが極めて大切で、何かを一緒にするという日常の些細な事から生まれます。

このことが、信頼関係を築くために極めて重要であることを大人が自覚し、家庭や学校で意図的にその機会をつくります。

→ 友人や教員との心の結びつきや信頼感があると感じられる「絆づくり」の場にします。

2 計画（案）の概要について（つづき）

（2）基本となる考え方

「大野市が目指す学校教育」の実現のために、次のとおり小中学校の再編を進めます。

学校再編の最終目標・・・

大野市の児童生徒に最適な教育環境を整備すること

○ 教育環境の充実

児童生徒が公平で最適な教育を受けることができる権利を保障するため、一定規模の学習集団を確保し、教育環境の充実を図ります。

○ 成長過程の重視

小学校期は、地域の人たちの協力のもと、地域の温かい見守りの中で「安心感」を育てます。中学校期は、より広い世界の市全体で「生きる力」と「社会性」を育てます。

○ 段階的な再編

小学校は、まず特例措置の複式学級を解消します。中学校は、可能な限り専門教科教員を配置することを重視します。小学校、中学校ともに、学校教育を取り巻く社会情勢や児童生徒数の状況、校舎の耐久性等を勘案し、中長期的な視点に立ち段階的な再編を検討します。

○ 地域との関係

特に小学校は、地域との関係が密なことに十分配慮し、公民館等の機能強化や連携など、地域の活力の維持と向上に努めます。

○ 慎重に丁寧に着実に進める

既存校舎の有効活用を行うとともに、児童生徒の通学や学校生活に過度な負担にならないように、また放課後の居場所を確保するなど慎重に進めます。

保護者や地域の合意形成や不安の解消とともに、希望と期待が膨らむ環境づくりに向け、十分な説明や支援等ていねいに対応します。

情報を全て公開し、検討過程を透明化するとともに、実際に再編の進む様子を実感できるようにするなど、多くの市民の理解と支援のもと着実に進めます。

2 計画（案）の概要について（つづき）

（3）再編の内容

■ 喫緊の課題

中学校は、すべての教科で専門教科教員を配置することが必要です。

小学校は、特例措置である複式学級を解消することが必要です。

中学校 5校
(令和3年4月現在)



小学校 9校
(令和3年4月現在)



学校数	2校に再編 1 開成中学校と上庄中学校 2 陽明中学校と尚徳中学校と和泉中学校 より広い世界で自立を支援するとともに、より多様な個性をもった友人や大人との関わりの中で、社会的にもバランスのとれた人間性を育成することが大切です。 また、全教科で知的にも情操的にもバランスの取れた教育を保障します。部活動の選択肢も増やします。
再編の時期	令和6年（2024年）4月 小規模校の課題が顕在化している中学校の再編を小学校より先とします。 再編に向けた協議を令和4年度に行い、令和5年度には生徒の交流などの準備を進めます。
再編の方法	既存校舎を活用

学校数	7校に再編 1 有終西小学校 2 有終南小学校と小山小学校 3 有終東小学校 4 下庄小学校 5 上庄小学校 6 富田小学校と阪谷小学校 7 和泉小学校
再編の時期	令和8年（2026年）4月 中学校を含めて5校の再編を同時に行おうとすると、児童生徒や保護者の負担軽減や不安感を解消できない恐れがあります。 このため、これまでの再編や先に行う中学校の再編を十分に検証し、より丁寧に再編を進めるために、中学校の再編の2年後に行います。
再編の方法	既存校舎を活用

2 計画（案）の概要について（つづき）

（4）再編に係る取組み

教育環境の変化に対する児童生徒や保護者の負担軽減や不安解消が重要



学校・地域・行政が一体となって取り組む（後述）

（5）将来の再編に向けて

○ 適正な学校規模の検討

将来の児童生徒数の減少や教育制度の改正状況を見据えながら、適正な学校規模や教育環境の整備などの検討を継続します。全ての小中学校を対象として、校区の見直しも含めた検討をする必要もあります。

○ 学校施設の老朽化対策

児童生徒の教育環境の安全と安心を確保するために、学校施設の老朽化対策にも計画的に着手する必要があります。

○ 再編基準の検討

学校の再編を行うにあたっての基準を検討します。

○ 次期再編の検討

この計画に定める再編が完了してから概ね5年を目途に、次期再編の方向性の検討を始めることとします。その際、中学校は2校体制を維持するかどうかの判断が求められます。また、小学校は大野市小中学校再編計画検討委員会報告書にもある5校案を含め、市全体を対象に検討する必要があります。

○ 校名・校歌等の検討

次期再編を検討する際には、校名、校歌、校章等も検討する必要があります。



学識経験者や保護者、教員、市民などが参画する協議体を設置し、状況の推移を注視していきます。将来の児童生徒数の減少や教育制度の改正状況を見据えながら、適正な学校規模や教育環境の整備などの検討を継続します。

再編に係る取組みについて

◆ 説明会で出された主な意見と回答

意見	回答
<p>部活動は、再編するまでの間はどのような形になるのか。 それぞれの学校にしかない部活は継続されるのか。 3年生で再編された時にどのように活動すればよいのか。</p>	<p>部活動の継続については、生徒とも話し合っ決めていくことも必要である。 また、3年生の部活動の問題については、学校や県の中体連などと早いうちから協議を始めたい。</p>
<p>生徒会や部活動の役員は前の年度に決まるが、再編を見越した選出をしてほしい。</p>	<p>生徒会長・副会長を決める時に、事前交流の中で生徒会の総会を一緒に開催するというのも一つの方法である。</p>
<p>小学生が小学校の間に、陽明、尚徳に行く小学生と交流することはできないか。</p>	<p>中学校に上がった時に、少しでも仲間意識が高まっていて、違和感なく入学できるというのは大事なことだと思う。参考にさせていただいて、十分な交流をしていきたい。</p>
<p>再編した際のクラス分けはどのようにするのか。</p>	<p>クラス分けについては、学校と相談したい。</p>
<p>スクールバスの運行については、保護者とよく協議して決めてほしい。 朝練、土日、祝日等の部活動時にもスクールバスで送迎してほしい。</p>	<p>大野市では令和元年度から朝の練習をやめており、朝にバスを出すことはない。 土日については慎重に検討しなければいけないと思っている。現在は運行していない。</p>
<p>ケガや病気の時の態勢を整えてほしい。</p>	<p>病気、事故の場合は、まず保護者に連絡をして、どこの病院へ連れていくとよいかなどを相談し、養護教諭などが引率して病院へ連れて行き、保護者と病院で合流して状況説明などを行っている。</p>
<p>学用品は、再編時に揃えるのではなく、あらかじめそろえることができないか。 受け入れる学校や再編対象でない学校でも、制服や体操服（生地含む）、ランドセルなどを変更できないか。</p>	<p>両方のPTAや学校との協議になるが、変えなくてもいいのではないかな。お互いに話し合い、よりよい方法を選択してほしい。 また、早いうちから協議を始めることも検討したい。</p>
<p>計画を進める際には、児童生徒の意見も聞いてほしい。</p>	<p>学校をどういう風にしていくと良いかなど学校生活については、子どもの意見を聞いていきたい。できる限り子どもにも情報を提供しながら進めていかなければいけない。</p>
<p>リモート授業などの導入は考えているのか。</p>	<p>1人1台のタブレット端末を配備したので、今後は、リモートでの授業も可能になる。</p>
<p>教育の縦軸、横軸の具体的な取り組みはどのようなものか。</p>	<p>縦軸は、尚徳中学校区の中で、富田小学校と阪谷小学校が一緒になり小中の縦の連携を行っている。教員の話し合いと研修が中心となっているので、まだまだ、小中の連携はできると考えている。 横軸は、タブレットなども十分に駆使すると、小学校同士、中学校同士の対応もできる。授業の交流や生徒会の選挙などもオンラインでできる可能性がある。</p>
<p>地域の大人から学ぶことを進めてほしい。</p>	<p>現在の取り組みなども含めて、今後も進めていきたい。</p>

◆ 再編に係る取組みなど

項目	内容						
環境変化への対応	<p>小山小学校の全児童が有終南小学校へ、阪谷小学校の全児童が富田小学校に通学します。上庄中学校の全生徒が開成中学校へ、尚徳中学校、和泉中学校の全生徒が陽明中学校に通学します。</p> <p>統合までに事前交流を行い、新しい学校になじみやすくします。</p> <p>また、小山小、阪谷小、上庄中、和泉中、尚徳中の教職員を何名か新しい小中学校に配置し、慣れ親しんだ教職員に相談などしやすくします。</p>						
受け入れ体制	<p>有終南小、富田小、開成中、陽明中ともに、施設的に十分受け入れ可能です。</p> <p>小山小、阪谷小、上庄中、尚徳中、和泉中の特色ある教育活動や校訓、教育目標などを新しい学校に引き継ぐことについて、学校間で協議します。</p>						
登下校の負担軽減	<p>保護者と学校が協議して、スクールバスの運行経路を決定します。（毎年度見直し）</p> <p>また、部活動に参加しやすくするよう、運行時間にも配慮します。</p> <p>※文部科学省が示す目安</p> <p>徒歩や自転車による通学距離は、小学校で片道4 km、中学校で片道6 kmを目安とする。</p> <p>それ以上の場合、スクールバスを導入することなどを検討する。</p> <p>また、運行時間が1時間以上にならないように経路等に配慮する必要がある。</p>						
保護者の負担軽減	<p>統合先の学校の学用品（体操服、内履き等）を購入するための経費に対する補助を行います。</p> <p>※大野市小学校再編支援事業補助金交付要綱（中学校を対象とした制度を追加します。）</p> <table border="0" data-bbox="556 851 1518 915"> <tr> <td>学用品購入支援</td> <td>統合年度に2年生又は6年生になる児童</td> <td>10分の10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3年生から5年生になる児童</td> <td>10分の5</td> </tr> </table> <p>修学旅行参加支援 統合先の学校の修学旅行に参加する児童 10分の10</p>	学用品購入支援	統合年度に2年生又は6年生になる児童	10分の10		3年生から5年生になる児童	10分の5
学用品購入支援	統合年度に2年生又は6年生になる児童	10分の10					
	3年生から5年生になる児童	10分の5					
公民館機能の強化と地域との連携	<p>学校は、新しい校区を学習の場とした「ふるさとを知り、ふるさとを創る」教育の推進を図ります。</p> <p>公民館（地域交流センター）をあらゆる世代が集うコミュニティの拠点となるよう努めるとともに、子どもが地区固有の魅力を学ぶ場所としても活用します。</p> <p>地区の体育大会や敬老会等の地区行事には、従来どおり上庄地区、富田地区、阪谷地区、和泉地区の児童生徒が参加できるよう配慮します。</p>						
地域とともに考える学校の再編	<p>小山小、阪谷小、尚徳中、和泉中の校区で（仮称）再編準備委員会を設立し、協議を行います。</p> <p>また、PTA間、学校間などで協議する必要がある項目は、個別に協議を行い準備委員会に報告することとします。</p>						

◆ 小山小学校児童数の将来予測 (学級数に特別支援学級は含みません。) ※令和3年4月1日現在の年齢別人口(年度)を学校区で集計

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R12	R17	R22
小山小	1年	5	7	6	5	9	4	6	4	4	3
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2年	8	5	7	6	5	9	4	5	4	4
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	(複式)	(複式)
	3年	8	8	5	7	6	5	9	5	5	4
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4年	7	8	8	5	7	6	5	6	5	4
	学級数	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)
	5年	5	7	8	8	5	7	6	4	5	5
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	6年	8	5	7	8	8	5	7	9	4	4
	学級数	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)	(複式)
合計	41	40	41	39	40	36	37	33	27	24	
学級数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	

◆ 有終南小学校と小山小学校を統合したときの児童数の推移 (※学級数に特別支援学級は含みません。)

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R12	R17	R22
小山小 + 有終南小	1年	68	52	51	56	45	46	39	39	35	36
	学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2
	2年	55	68	52	51	56	45	46	48	40	34
	学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
	3年	78	55	68	52	51	56	45	53	45	38
	学級数	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	4年	60	78	55	68	52	51	56	51	45	38
	学級数	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	5年	53	60	78	55	68	52	51	46	47	44
	学級数	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2
	6年	64	53	60	78	55	68	52	45	39	35
	学級数	2	2	2	3	2	2	2	2	2	1
	合計	378	366	364	360	327	318	301	282	251	225
	学級数	13	13	13	13	12	12	12	12	11	10

◆ 開成中、上庄中生徒数の将来予測 (※学級数に特別支援学級は含みません。) ※令和3年4月1日現在の年齢別人口(年度)を学校区で集計

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
開成中	1年	93	80	80	77	102	75	93	71	71	78	69	60	70
	2年	89	93	80	80	77	102	75	93	71	71	78	69	60
	3年	105	89	93	80	80	77	102	75	93	71	71	78	69
	合計	287	262	253	237	259	254	270	239	235	220	218	207	199
上庄中	1年	21	18	16	21	18	22	25	19	17	19	13	14	12
	2年	24	21	18	16	21	18	22	25	19	17	19	13	14
	3年	24	25	21	18	16	21	18	22	25	19	17	19	13
	合計	69	63	55	55	55	61	65	66	61	55	49	46	39

◆ 開成中、上庄中を統合したときの生徒数の推移 (※学級数に特別支援学級は含みません。)

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
開成中 + 上庄中	1年	114	98	96	98	120	97	118	90	88	97	82	74	82	
	学級数	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	3	3	3	
	2年	113	114	98	96	98	120	97	118	90	88	97	82	74	
	学級数	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	3	3	
	3年	129	113	114	98	96	98	120	97	118	90	88	97	82	
	学級数	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	3
	合計	356	325	308	292	314	315	335	305	296	275	267	253	238	

◆ 陽明中、尚徳中、和泉中生徒数の将来予測 (※学級数に特別支援学級は含みません。) ※令和3年4月1日現在の年齢別人口(年度)を学校区で集計

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
陽明中	1年	111	94	105	107	112	92	104	99	99	89	84	64	82
	2年	132	111	94	105	107	112	92	104	99	99	89	84	64
	3年	103	132	111	94	105	107	112	92	104	99	99	89	84
	合計	346	337	310	306	324	311	308	295	302	287	272	237	230
尚徳中	1年	21	22	18	26	24	22	24	21	21	26	17	14	24
	2年	25	21	22	18	26	24	22	24	21	21	26	17	14
	3年	27	25	21	22	18	26	24	22	24	21	21	26	17
	合計	73	68	61	66	68	72	70	67	66	68	64	57	55
和泉中	1年	5	1	1	2	4	2	0	2	0	1	1	1	1
	2年	2	5	1	1	2	4	2	0	2	0	1	1	1
	3年	0	2	5	1	1	2	4	2	0	2	0	1	1
	合計	7	8	7	4	7	8	6	4	2	3	2	3	3

◆ 陽明中、尚徳中、和泉中を統合したときの生徒数の推移 (※学級数に特別支援学級は含みません。)

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
陽明中 + 尚徳中 + 和泉中	1年	137	117	124	135	140	116	128	122	120	116	102	79	107
	学級数	5	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	3	4
	2年	159	137	117	124	135	140	116	128	122	120	116	102	79
	学級数	5	5	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	3
	3年	130	159	137	117	124	135	140	116	128	122	120	116	102
	学級数	5	5	5	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4
	合計	426	413	378	376	399	391	384	366	370	358	338	297	288

資料
(教育環境の現状について)

教育環境の現状について

(1) 小学校の状況 (令和3年5月1日現在)

※教員数、教室数は令和2年5月1日現在)

No.	学校名	項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	知的	自・情	合計	教員数	教室数 普通	教室数 特別	開校 年度
1	有終西小学校	児童数	28	20	24	33	27	20			152	13	12	10	M5
		学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
2	有終南小学校	児童数	63	47	70	53	48	56			337	22	19	12	M8
		学級数	2	2	2	2	2	2	2	1	2				
3	有終東小学校	児童数	46	44	58	41	43	47			279	18	16	8	S53
		学級数	2	2	2	2	2	2	2	1	1				
4	小山小学校	児童数	5	8	8	7	5	8			41	8	6	8	M8
		学級数	1	1	1	1	1				4				
5	下庄小学校	児童数	51	43	53	50	60	43			300	21	15	9	M20
		学級数	2	2	2	2	2	2	2	1	1				
6	上庄小学校	児童数	26	23	18	21	17	18			123	11	10	8	M30
		学級数	1	1	1	1	1	1	1		1				
7	阪谷小学校	児童数	6	2	3	3	3	7			24	7	6	7	M5
		学級数	1		1		1		1		4				
8	富田小学校	児童数	17	21	21	22	14	14			109	11	7	9	M8
		学級数	1	1	1	1	1	1	1		1				
9	和泉小学校	児童数	0	3	4	2	1	1			11	7	6	7	M7
		学級数	1		1		1		1		4				
小学校合計		児童数	242	211	259	232	218	214			1,376	118	97	78	
		学級数	10	10	9	9	9	9	6	7	69				
		複式	2		3		3				8				

教育環境の現状について

(2) 中学校の状況 (令和3年5月1日現在)

※教員数、教室数は令和2年5月1日現在)

No.	学校名	項目						知的	自・情	合計	教員数	教室数 普通	教室数 特別	開校 年度
			1年	2年	3年									
1	開成中学校	生徒数	93	89	105					287	25	18	13	S46
		学級数	3	3	4	1	1			12				
2	陽明中学校	生徒数	111	132	103					346	31	20	14	S46
		学級数	4	4	4	1	1			14				
3	上庄中学校	生徒数	21	24	24					69	10	6	10	S22
		学級数	1	1	1		1			4				
4	尚徳中学校	生徒数	21	25	27					73	10	7	12	S35
		学級数	1	1	1					3				
5	和泉中学校	生徒数	5	2	0					7	7	4	5	S22
		学級数	1	1	0	1				3				
中学校合計		生徒数	251	272	259					782	83	55	54	
		学級数	10	10	10	3	3			36				

教育環境の現状について

(3) 中学校における部活動（常設）の状況

	運動部	文化部
開成	陸上、バレーボール、男女バスケットボール 卓球（男女）、女子ソフトテニス、野球、サッカー	吹奏楽 創造
陽明	陸上、男女バレーボール、男女バスケットボール 男女卓球、バドミントン、野球	吹奏楽 美術、自然
上庄	男子野球、男子バレーボール 女子バスケットボール、女子ソフトボール	吹奏楽
尚徳	陸上、女子バスケットボール、野球	カルチャー
和泉	陸上、剣道	

(4) 中学校における免許所有教員の配置状況

	音楽	美術	技術	家庭	
開成	◎	◎	◎	△	◎ 配置あり ○ 常勤講師又は 非常勤講師 △ 配置なし
陽明	◎	◎	◎	◎	
上庄	○	△	△	△	
尚徳	○	△	△	△	
和泉	△※◎	△	△	△	

※和泉中学校は、音楽の免許を持つ教員が兼ねている

教育環境の現状について

(5) 小中学校の施設の状況

区分	学校名	建築年	現在までの 経過年数	校舎面積	体育館面積	運動場面積
小学校	有終西小学校	平成18年	15年	6,908㎡	1,151㎡	23,031㎡
	有終南小学校	昭和55年	41年	5,602㎡	1,257㎡	10,964㎡
	有終東小学校	昭和53年	43年	4,871㎡	1,267㎡	8,670㎡
	小山小学校	昭和63年	33年	2,275㎡	895㎡	11,896㎡
	乾側小学校	昭和54年	42年	1,685㎡	707㎡	7,607㎡
	下庄小学校	昭和60年	36年	5,191㎡	1,260㎡	7,935㎡
	上庄小学校	昭和58年	38年	3,747㎡	1,213㎡	9,753㎡
	阪谷小学校	昭和56年	40年	2,058㎡	736㎡	13,071㎡
	富田小学校	平成15年	18年	2,969㎡	724㎡	6,577㎡
	和泉小学校	平成17年	16年	1,668㎡	1,406㎡	4,160㎡
中学校	開成中学校	昭和49年	47年	6,002㎡	1,550㎡	15,200㎡
	陽明中学校	昭和47年	49年	5,718㎡	1,442㎡	17,057㎡
	上庄中学校	昭和62年	34年	2,891㎡	1,220㎡	20,692㎡
	尚徳中学校	昭和38年	58年	3,903㎡	1,203㎡	28,929㎡
	和泉中学校	平成17年	16年	1,700㎡		4,160㎡